

STOP! 転倒災害

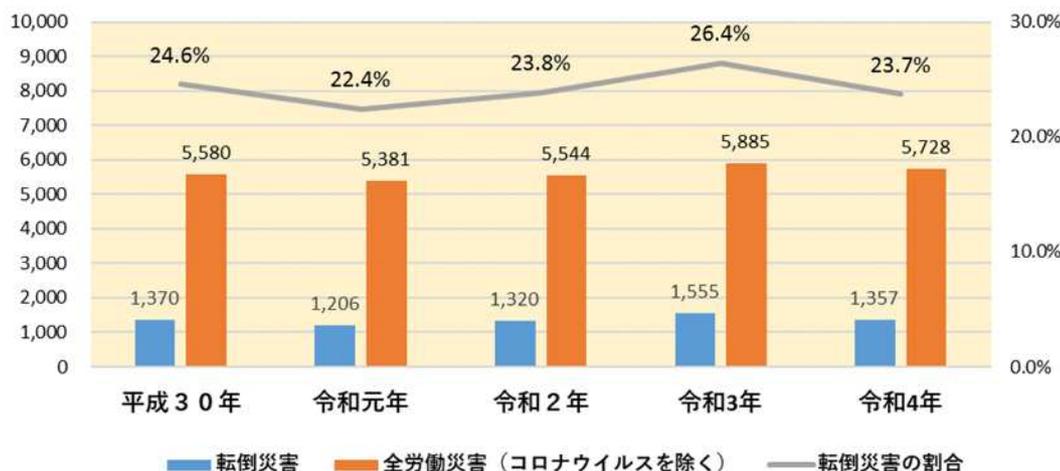
FUKUOKA 2023
(2023.6月-2024.2月)



転倒災害は最も多い労働災害で、全体の約20%強、60歳以上の高齢者の比率が約50%を占め、この防止対策が不可欠な状況です。

転倒災害の発生状況（福岡県）

令和4年の福岡県における転倒災害の発生件数は1,357件と、前年と比較して減少しているものの、過去5年間でみると、緩やかに増加しているといえます。また、転倒災害は全労働災害の20%強を占めています。



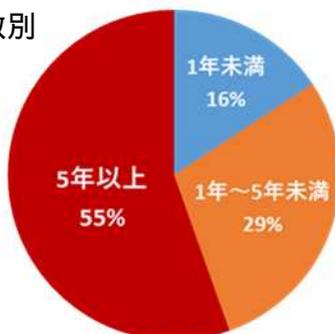
転倒災害の特徴

60歳以上の高齢者の比率が約50%を占め、経験年数が5年以上の労働者が被災する割合も50%を超えています。また、被災者の60%以上が1か月以上の休業を余儀なくされています。

年齢別



経験年数別



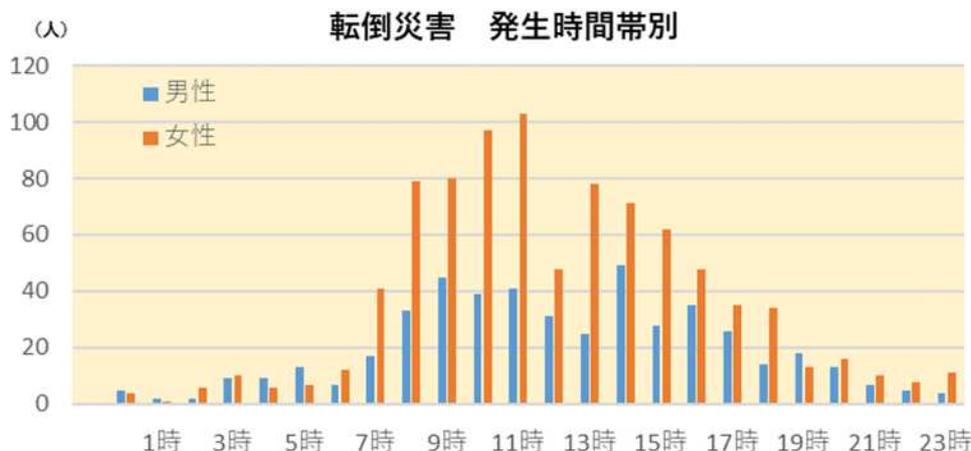
休業日数別



【資料】労働者死傷病報告(令和4年)

転倒災害の発生時間帯

発生時間帯は午前11時台が最も多く、次に10時台、午後は13時台に多く発生しています。



転倒災害の種類と主な原因

滑り



つまづき



踏み外し



〈主な原因〉

- 床に水や油が飛散している
- ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている
- 床が滑りやすい素材である

〈主な原因〉

- 床面の凹凸や段差がある
- 通路等に荷物や商品などが放置されている。
- 自分で思ったより足が上がらない。

〈主な原因〉

- 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。
- 階段、通路、作業場が暗い。

転倒災害防止対策のポイント

転倒災害を防止することで、安心できる作業となり、作業効率の向上が望めます。

- 床面の汚れ(水、油、粉等)を取り除く
- 床面の凹凸、段差等の解消
- 手すり、滑り止めの設置
- 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行

- 歩行場所に物を放置しない
- 足元が見にくい状態で作業させない
- 時間に余裕をもって行動(作業時間の適正化)

- 作業に適した靴の着用
- 職場の危険マップの作製による危険情報の共有(危険の見える化)
- 転倒危険場所にステッカー等で注意喚起(転倒危険個所の見える化)

転倒災害防止のためのチェックシート

セーフティチェック項目

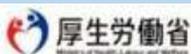
		✓
1	通路、階段、出入口に物を放置していませんか	
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか	
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	
5	作業靴は、作業内容に適した耐滑性があり、かつ、サイズが合うものを選んでいませんか	
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などを標識などで注意喚起していますか	
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	

高齢者の安全衛生対策

エイジフレンドリー助成金(令和5年度分は今後正式発表される見込み)

エイジフレンドリー補助金は、60歳以上の高齢者を雇用する中小企業事業者を対象に、職場環境の改善に要した費用の一部を補助します。

昨年度は、(一社)日本労働安全衛生コンサルタント会に委託され、申請受付期間は令和4年5月11日から9月30日まででした。



職場の安全を応援する情報発信サイト/

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/>

職場のあんぜんサイト

各種情報発信をしています。



福岡労働局・労働基準監督署

